

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

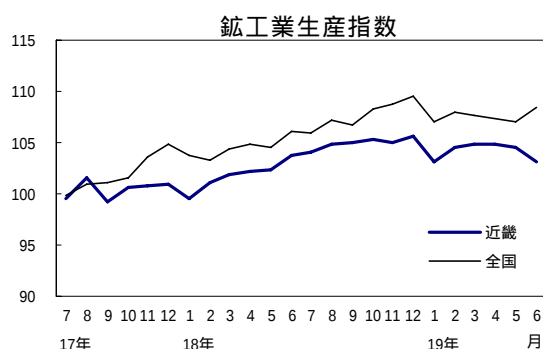
### 前回調査からの主要変更点

|      | 前回（平成 19 年 5 月） | 今回（平成 19 年 8 月） |   |
|------|-----------------|-----------------|---|
| 住宅建設 | 大幅に増加           | 減少              | ↓ |

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、蒸気タービンやショベル系掘削機械等が、海外向けを中心に好調なことから増加している。化学は、化粧品等が好調なことから堅調に推移している。電気機械は、セパレート型エアコンが前期の反動で減少したこと、全体としては減少している。食料品・たばこは、清酒、ビール、発泡酒等が好調だったことから増加している。電子部品・デバイス、固定コンデンサが不調だったことや、海外向けのアクティブ型液晶素子（中・小型）の需要が減少していることなどから、全体でも減少している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成19年6月の近畿は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

|           | 付加価値<br>ウェイト | 生産        |           | 出荷        | 在庫        |
|-----------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|           |              | 1～3<br>月期 | 4～6<br>月期 | 4～6<br>月期 | 4～6<br>月期 |
| 一般機械      | 15.0         | ▲0.9      | 4.5       | 5.4       | 2.3       |
| 化学        | 12.8         | 0.8       | 0.9       | 1.3       | ▲7.0      |
| 電気機械      | 10.1         | ▲2.0      | ▲0.6      | 3.3       | ▲3.7      |
| 食料品・たばこ   | 8.1          | 0.0       | 2.4       | ▲0.2      | 45.9      |
| 電子部品・デバイス | 7.9          | ▲5.7      | ▲3.1      | ▲4.8      | 3.9       |
| 鉱工業       | 100.0        | ▲1.0      | 0.0       | 1.1       | 0.2       |

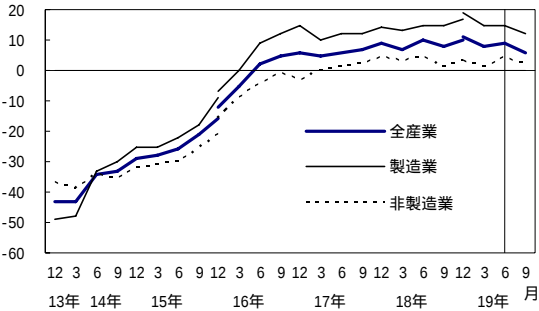
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期は速報値。

( 2 ) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

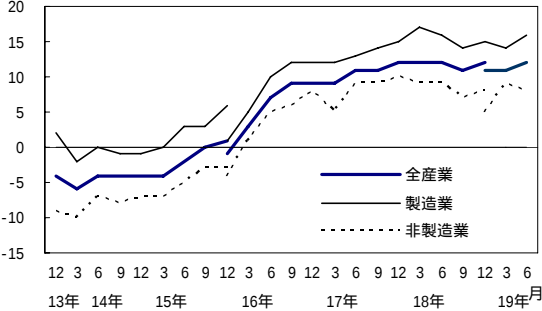
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [ 業況判断 ]



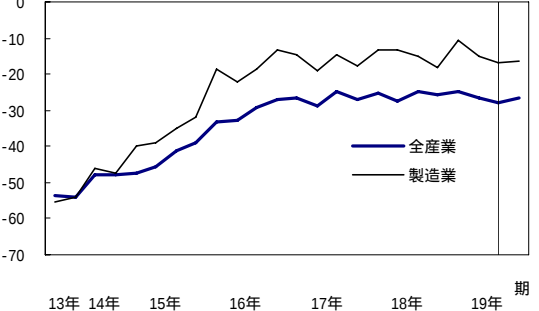
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年9月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [ 資金繰り判断 ]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [ 業況判断 ]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 ( 7 月 ) [ 企業動向関連 ( 現状 ) ]

「引き続き薄型テレビは堅調に推移しているほか、スチームオープンやドラム式洗濯機など、高付加価値商品の荷動きが好調である ( 電気機械器具製造業 ) 」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

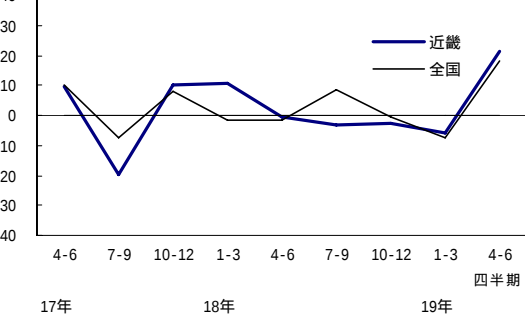
( 3 ) 19 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ( 6 月調査 ) ]

|         | ( 前年度比、 % )    |               |
|---------|----------------|---------------|
|         | 18 年度実績        | 19 年度計画       |
| 全 産 業   | 4.1 ( ▲4.2 )   | 13.2 ( 8.3 )  |
| 製 造 業   | 12.1 ( ▲2.0 )  | 11.7 ( 6.5 )  |
| 非 製 造 業 | ▲ 2.4 ( ▲6.1 ) | 14.6 ( 10.1 ) |

(備考)( ) は前回 ( 3 月 ) 調査比修正率。

建築着工床面積  
( 非居住用、前年同期比 )



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

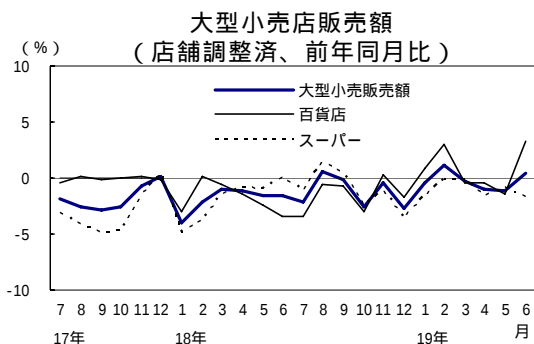
百貨店は、4月は、飲食料品は生鮮食品や菓子等の動きが良く前年を上回ったが、衣料品は気温が低めに推移したことから春・初夏物が不調で前年を下回ったことから、全体では前年を下回った。5月は、飲食料品は惣菜や洋菓子等の動きが好調で前年を上回ったが、衣料品は紳士服ではスーツやワイシャツ、婦人服ではジャケットやスカートの動きが鈍く前年を下回ったことから、全体では前年を下回った。6月は、月末から始まった夏のセール効果に加え、天候が良かったことから衣料品ではポロシャツやワンピースなどの夏物衣料が好調だったこと、飲食料品では中元の早期受注が好調だったことなどから、全体でも4ヶ月ぶりに前年を上回った。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の7月の売上高は、前年同月比で3.6%減となっている。

スーパーは、野菜や果物など飲食料品の一部で動きがみられたが、衣料品が振るわず、全体では前年を下回っている。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「7月のセールには例年以上に期待していたが、良かったのは月前半のみで、中盤から後半にかけては決して良くない状態であった。客の間では、本当に欲しい商品のみ購入する傾向が一段と強くなってきている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

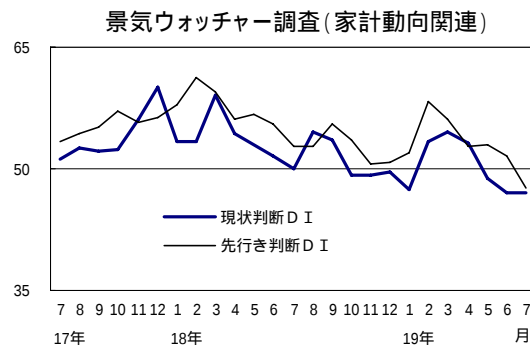
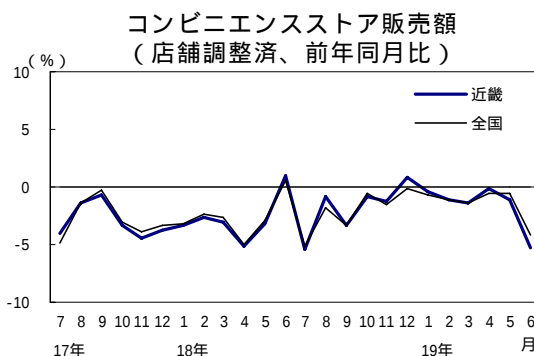
(前年同月比、%)



|          | 18年7-9月 | 10-12月 | 19年1-3月 | 4-6月 |
|----------|---------|--------|---------|------|
| 大型小売店    | ▲0.7    | ▲2.0   | 0.1     | ▲0.6 |
| 百貨店      | ▲1.7    | ▲1.4   | 1.0     | 0.5  |
| スーパー     | 0.2     | ▲2.4   | ▲0.7    | ▲1.4 |
| コンビニ     | ▲3.2    | ▲0.4   | ▲1.0    | ▲2.3 |
| 景気ウォッチャー | 52.7    | 49.4   | 51.8    | 49.7 |

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

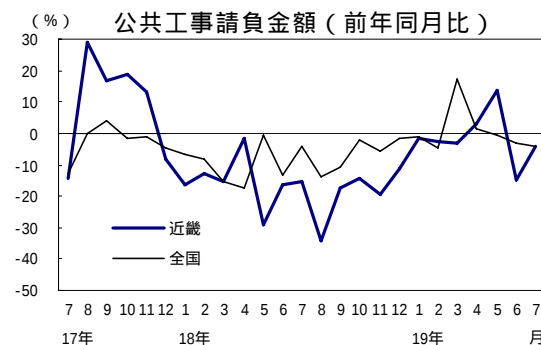
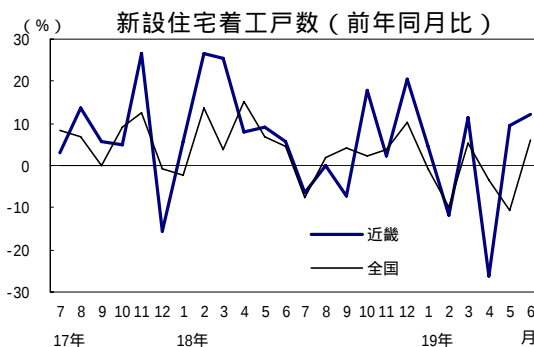
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少している。

給与、貸家が前年を上回ったものの、持家が下回ったことから、全体では減少している。

### (3) 公共投資は19年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

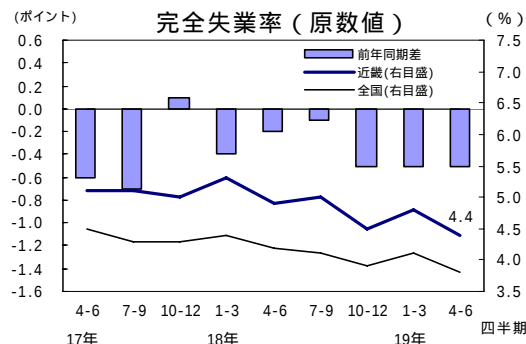
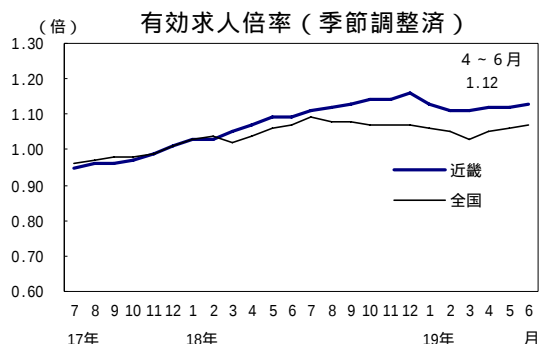


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

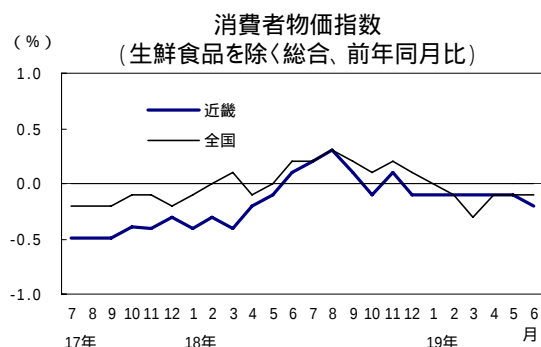
「求人数の推移に変化はないものの、特定企業に偏っている傾向がみられるなど、業種間で求人数の格差が生じている（求人情報誌製作会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

|       | (件、億円、%) |        |         |       |       |
|-------|----------|--------|---------|-------|-------|
|       | 18年7-9月  | 10-12月 | 19年1-3月 | 4-6月  | 19年7月 |
| 倒産件数  | 893      | 897    | 920     | 980   | 326   |
| (前年比) | 3.1      | ▲17.2  | ▲0.1    | 7.7   | 19.9  |
| 負債総額  | 2,064    | 3,301  | 2,242   | 2,102 | 601   |
| (前年比) | ▲42.6    | 3.3    | ▲37.5   | 11.1  | 41.0  |



○ 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・健康食品や化粧品関係では、しっかりと説明すれば、高機能、高単価の高級品を購入する客が少しずつ増えている（その他専門店 [医薬品]）。

<先行き>

・ユーロ高に伴い、この夏はヨーロッパからの輸入商品が軒並み大幅な価格改定となる。値上げ前には駆け込み受注が増えるが、その後の落ち込みが懸念される（住関連専門店）。

#### 景気ウォッチャー調査（合計）

